

第 11 回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第 11 回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日 時：令和 4 年 3 月 22 日（火）午前 10 時 00 分～11 時 58 分
3. 場 所：北杜市役所西会議室
4. 出席者：
(委 員) 清水一彦・川村めぐみ・清水精・清水永一・道村幸男・
小澤浩・岡安祐樹・金谷裕司・矢崎茂男・小池雅美・
細川英雄・瀧澤真・高木ひとみ
(事務局) 興水教育長・加藤教育部長・佐野参事・平井教育総務課長・
田中教育指導監・天池総務担当リーダー・安部施設担当リーダー・
原学校教育担当リーダー・柳澤総務担当
5. 議事
(1) 北杜市立小中学校適正規模等についての答申（案）について
(2) その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：2 人
8. 議事録署名委員：瀧澤真委員、高木ひとみ委員

議 題

(1) 北杜市立小中学校適正規模等の答申（案）について

(会 長) 本日の議題は答申案についてである。最初に私の方から、感想を含めた意見を述べさせていただく。答申案の「2 これからの学校教育の方向性」を中心に文章化するというので、ワーキンググループを中心に努めていただいた。御礼を申し上げる。全体的な印象としては、資料やデータも豊富にあり、研究論文に近い答申書になったと思う。特徴は 3 点あり、1 点目は適正規模・適正配置について、本質的な教育論や哲学的な部分に踏み込んでいただいた点である。2 点目は、これまで統合というと水平統合という話であったが、垂直統合や組み合わせ案などに踏み込んでまとめた点である。併せて、小規模校のメリットについても、十分にまとめたことも特徴である。3 点目は、この答申案は国や他県の最新の動向や実践事例も参考にしながら、日本の学校教育について考察や分析しており、答申に取り込んでいる点である。

事務局に説明を求める前に、ワーキンググループの委員より、まとめたいただいた資料の経緯や様子等について説明をお願いしたい。

- (委員) 前回審議会の議論を受けて、答申の文章化が必要ということであった。まず、事務局の方にこれまでの資料を整理していただき、それをたたき台にしてワーキンググループのメンバーで文章化をした。学校関係者、保護者、地域代表の方々からそれぞれご意見をいただき、これまでの審議会での議論を基に作成された。特に学校関係者の方々からは、具体的なコメントもいただき、相互にやり取りを重ねた上でまとめられたものである。基本的な考え方としては、具体的にどのような適正規模・統廃合をするかというよりも、むしろその前提となる適正規模とは何か、統合は学校教育にとってどのような意味があるかということを中心に考えて、文章化する方向で意見が一致した。結論としては3案併記という形になっているが、教育に対する考え方はこの答申案の第2章に盛り込まれている。
- (会長) 他にワーキンググループに参加していただいた委員より、追加の説明がなければ、事務局に説明を求める。
- (事務局) (事務局より資料を用いて説明)
- (会長) 前回の答申案と異なった点を中心に説明があった。この答申案について、誤字・脱字も含めて、表現に対する質問や意見などを伺いたい。まず私の方から、1ページの2段落目の適正規模等審議会の「正」の字に修正していただきたい。次に、6ページの3段落目に「小規模・少人数」とあるが、5ページの「少人数・小規模」と同様に統一していただきたい。次の段落の「まず1つ目は」の後に点を入れた方がいい。そして、7ページの2段落目の読点の向きが逆になっている。最後に9ページの図表の下「上図のように」は「図表のように」としていただきたい。
- (委員) 前回の審議会を欠席したが、答申案を文章化した方が分かりやすいという話が出たということを知って、確かにその通りだと思った。文章化していただいた委員には、大変ご苦労いただき答申の文章化を進めていただいたということで、敬意を表す。また事務局の方々のご苦労に対して深謝申し上げる。本日は、年度末という時期でもあり、新たな議論という段階ではないと思っている。基本的にはこの原案通りの答申で良いと思う。1つだけお伝えしておきたいことがある。6ページでスポーツ少年団の活動について言及されているが、実は私は30年間サッカーに関わってきた指導者である。その中で、現在の少年団、例えばサッカーのスポーツ少年団は

北杜市内では3つしかないわけだが、これは積極的な理由で小学校を越えた活動をしているのではなく、団員数の減少によってやむを得ず統合が進んだというのが実態である。明野、須玉、高根、大泉はかなりの広域で行っているので、保護者の負担が非常に大きい。統合したときより既に団員が6割減っている。統合したのに20人程度しかいないということである。本来はスポーツ少年団というのは学校単位であるべきである。これはやむを得ずこうしているのだということを理解していただきたい。なお、長坂と小淵沢は、団員が11人を割るまで続けると言って頑張っている。

(会 長) スポーツ少年団の経緯や歴史について重みがある発言である。文章でそれを表すのは難しいかもしれないが、背景にはそうした現状があるということとを再認識したいというところである。

(委 員) 私も、改めて議論をするという段階ではないと思っている。7ページに国レベルで言及されている学校教育の課題があるが、これについては北杜市の学校でも同じ課題があると思っている。学校規模が変わるだけで解決されるものではなく、どういう形であっても解決していかなければいけないものだと思う。学校現場としても、学校の規模がどうなったとしても、これらの課題を解決して学校を意義あるものにし、教員にとっては働きやすい、子どもたちにとっては生活しやすいものにしていくのが大切だと思う。そのことを一番に願って、審議会として答申していくのがいいと思う。審議会には様々な立場の方がいらっしゃるので、それぞれの意見が反映されるべきだと思う。両論併記で答申していくことに賛成であり、それぞれに良いところも課題もあるということで、それを判断していただくという立場で良いと思う。学校現場としては、現在の北杜市は小さい学校ばかりなので、小さい学校ならではの課題というのがあって、それをなんとかしたいという思いで意見を出している。それをどのように解決するのか、答申後も検討して行ってほしいと思う。

(会 長) これからの市の教育行政の在り方にも関係することである。中央教育審議会が挙げた課題について、この審議会では適正規模・適正配置という観点から扱っているが、規模・配置だけで解決できる問題ではない。これは市の教育行政の課題でもあると思うので、市も考えていただければと思う。

(委 員) 4ページの下段に、学校と地域の関係をどのように考えるか、ということ

が書いてある。17年経ってもまだ旧イメージにとらわれているところが地域にもあり、合併の機会に改善していければ地域も発展するのではということ、このような文言が入ってきていると理解している。ひとつ確認しておきたいことは、3ページ以降、ワーキンググループの中で議論されたことがまとめられているわけだが、この中には学校現場から出された課題というのは含まれているのか。

(会 長) ワーキンググループの原案の中では、学校現場から出された課題が含まれていたものの、データや根拠が不足しているということで見直されたと聞いている。先程の委員の意見でもあったように、学校現場の課題というのは、規模・配置だけで解決できる問題ではないと考えられる。

(委 員) 長期間に渡って様々な皆さんが話し合いの中で選択肢を作って、その良い面と悪い面を含めて1つの資料にさせていただいたというのが今回の答申なのかなと思っている。この答申をできる限り早く、現実のものにしていくというのが重要と考えている。冒頭にも書かれているように、この話が出てきてからかなりの年月が経っている。その間、子どもの数も減り続けており、本来であれば行政が先手を打たなければいけない状況であるが、中々難しい問題でもあり、じっくりと議論して慎重に進めなければいけないということも理解できる。今回、時間をかけて練り上げられたこの答申を元にして、市の方で良い面・悪い面を確認していただきながら、今後の教育行政に活かしていただければ、この審議会は意味があったと思う。

(会 長) 私も同感である。今後この案をスピード感と実行性を持って、未来の子どもたちのためにより良い学校環境を作っていただきたい。ただし、拙速はいけないと思うので、慎重に住民、教職員の方の声を聞きながら進めていただければと思う。

(委 員) まずは、ワーキンググループの皆さんに、まとめていただき敬意を表したいと思う。委員の皆さん、地域の皆さん、様々な考えがあると思うので、それを1つの方向にまとめるというのは非常に難しいし、優しいテーマではないと思う。今回、北杜市の学校教育のあり方・方向性を示し、それに伴う課題が見えるようにしたというのは大きな成果だったと思う。様々な考え方はあると思うが、これを1つの拠り所として提示していくことに私は賛成する。

- (委員) 私はあまりこの審議会に参加出来なかったが、資料を読ませていただくなるほどと思うところはある。この資料のまま、スピード感を持って進めていただければ良いと思う。
- (委員) 途中から委員になったので、分からないこともあったが、先程の説明を聞きながら、このようにまとめていただいたことで、これまで分かりにくかった部分が、整理されて良かったと感じている。この案通りに進めていただければと思う。
- (委員) 今までの資料だけでは分からなかったことが、文章化することでとても分かりやすく、やはり良い面・悪い面をしっかりと出していただいたことで、一市民としても偏った形にならなくて良かった。どの選択肢になったとしても、良い面・悪い面があるので、将来の子どもたちのために私たちができることを考えていければと思う。
- (委員) 全体的に、この答申案はよく出来ていると思っている。個人的には学校現場の意見を、もう少し取り入れても良かったのかなと思う。
- (委員) 皆さんからの意見で、ほぼこれでいきましょうという方向性は見えてきたと思うが、文章作成に関わりながら気付いた点が2点ある。1点目は、1ページに、従来の4校案を推進するのは難しいという結論に至ったとあるが、なぜ難しかったのかという振り返りを市にしっかりとさせていただきたい。それがあつて審議会を再設置した理由がより強固になると思う。2点目は、21ページ以降の今後に向けての中に、具体的な組み合わせが提示されていることである。前回、会長がおっしゃっていたように、今回の答申では、北杜市の基本的な学校教育のあり方を示すことによって、北杜全体の方向性を示していくことに重きがあると思う。具体的な組み合わせというのは、実際に適正規模・適正配置を進めていく時の1つの資料にはなると思うが、この答申では細かい方法には入らずに、全体の考え方、大枠を示すまでに留めておいた方が良く思う。
- (会長) 23～24ページの組み合わせ案は、今後に向けての後なので、参考資料的な意味である。今のご意見は、本文の中に入ってしまうというご指摘かと思う。前回との繋がりもあるので、ここは切り離れたほうが良いかもしれない。前回の4校案を推進するのは難しいとされた理由は、私も知らないが、簡単に触れられるか。

- (事務局) まず1点目、23～24ページを参考資料とした方が良いのではないかと
ことであるが、26ページ以降が資料編になっているので、こちらのワーク
ショップの結果の中に掲載させていただく。2点目だが、前回の4校案の
合意が得られなかった主な理由としては、1ページにも書いてある通りで
あるが、地域性を考慮する必要性について特に言われていた。北杜市には、
8つの地域に歴史や文化などといった昔からの繋がりがある。前回、そう
いったところを考慮しなかったわけではないが、スピード感を持って推進
するという中で、施設面等を考慮し、実際に統合できそうな組み合わせを
重要視していた。そのように作られた案が、地域同士の繋がり観点等で、
理解が得られなかったということが1つある。もう1つは通学面である。
北杜市は大変広いので、案に対して、通学距離や通学時間などの不安が多
く上がった。この2点をもって、合意形成が得られなかったということで、
答申案のような記載にさせていただいている。
- (会 長) 地域性を考慮する必要性について、もう少し詳細に書くということでお願
いする。
- (委 員) 23～24ページについて、第3回のワークショップに参加したが、参加者の
皆さんがこの図に強く反応してしまい、話し合いが進まなかったというこ
とがあった。なので、私としてはこのページは載せなくてもいいと思う。
- (会 長) ワークショップではあまり意見が出なかったということだが、今後の教育
行政を進める上では参考資料として残しておいた方がいいと思う。
- (委 員) 私は、第2回のワークショップを見ていたが、この組み合わせ案は、もし
組み合わせるとしたらどのような案があるかといって出された意見を整
理したもので、ワークショップ参加者の総意ではなかった。多くの方はこ
こに目が行ってしまうと思う。第3回もかなり混乱したと聞いているの
で、載せない方が良いのではないかと思う。
- (会 長) これが独り歩きしてもいけないが、これが本審議会の1つの結論だと見ら
れても困る。
- (委 員) ワーキンググループでも発言したが、私は全くないというのも良くないと思
う。そんなに詳しくなくても垂直重視、水平重視、組み合わせ重視の代

表的なものを資料としてあげて、参考にしてもらう形がいいと思う。

- (会 長) この組み合わせは代表的なものであって、これが全てではない。
- (事務局) この組み合わせについては、ワークショップの結果を基に、ここに示されているルールに沿って考え得る全ての選択肢を載せている。代表的なものをあげると、それに向けて進めようとしていると誤解される可能性もあると考えている。
- (会 長) ワークショップの議論の証として残しておくことで、ワークショップを重視したという審議会のメッセージにもなると思う。組み合わせの図がグレーに塗ってあるのは何か説明はあるか。
- (事務局) 23 ページに書いてある通り、第3回ワークショップの結果を踏まえて不適と判断したものをグレーに塗ってある。あくまでワークショップの結果に基づいたものであって、地域の総意ということではないので、参考程度に見ていただくのが良いと考えている。
- (会 長) 審議会でもこのワークショップの結果まとめについては目を通して了解しており、ワークショップの位置付けを明確にするために残しておく方が良いと思う。今後の説明の中で、行政の方で塗りつぶしていない方で進めるといような誤解がないようにしていければいいと思う。意見は分かれたが、会長判断でワークショップの位置付けを明確にするために参考資料として載せるということにしたいと思う。
- (委 員) 1 ページの右下に囲まれた文章に違和感がある。審議会への諮問は「小中学校」となっているが、2 ページ以降では「中学校」と表現されている。一方で、全体を通して内容を見ると、小中学校のことが書かれている。審議会においても北杜市の学校教育のより良い方向を目指しましょうということで3年間審議してきたのであり、中学校に限定した議論ではなかったと思う。
- (会 長) この囲いの中で、「小中一貫校等の選択肢を否定するものではない」と書いてあり、「等」となっているので、私はここで小学校も含めていると解釈していた。もちろん全て小中学校と書き換えることも可能だが、事務局どうか。

- (事務局) このことについては審議会でも何度かご意見を頂き、事務局としても何度かご説明させていただいているが、1ページに書かれているこれまでの経過の中で小学校の統合は一段落したと市は考え、市民や議会にも説明してきているので、この審議会では中学校について議論していただきたいという思いで諮問させていただいた。このような背景を踏まえつつ、内容としては中学校の適正規模についてとしているが、小中一貫校という選択肢も含めて議論をいただいた。市民や議会への説明してきた経緯を踏まえ、このような注意書きをさせていただいたと理解をいただきたい。
- (会 長) 答申のタイトルは小中学校となっているが、小学校は一段落しているということで、答申の内容は中学校をベースにしながら、小学校のことも考えるということである。注釈的にそのことを書いた方が良いのではないか。
- (事務局) 記載されている文章が少し分かりにくいと思うので、小学校も含めて審議されているということ、もう少し明確に載せておきたいと思う。
- (会 長) この後、答申案の修正があるが、それは事務局にお願いし、細かい文言については会長一任とさせていただいてもよろしいか。
- (委 員) 異議なし。
- (会 長) 我々の審議会は、子どもの将来の教育と地域の発展という2つを軸に中長期的な視野から教育論、哲学論から始まって国の動向等も踏まえた形で答申をまとめることができた。改めて皆様のご尽力に感謝申し上げたいと思う。皆様には、今後とも北杜市の教育について、これまで以上に大きな関心を持っていただいて、北杜市の教育がより良くなるように関わっていただければと思う。
その他なければ、以上で議事を終了する。

終了